

ものづくりマイスターが指導発表

～ JCM政策セミナー「ものづくりによる地方創生」～

全日本金属産業労働組合協議会（JCM・金属労協）主催の「2015年度政策セミナー」が5月27日（水）開催（参加人員規模120名）されました。

開催内容は、「ものづくりを軸とした地方創生」をメインテーマとして、政策課題の説明と講演2件、事例紹介2件で、事例紹介のひとつとして、JAM熟練技能継承事業の事例が採り上げられました。

具体的テーマは「ものづくりマイスターとしての貢献～高度熟練技能者による工業高校への技能指導～」で、岐阜県でJAM熟練技能継承事業に多大な貢献をいただいた、ものづくりマイスターの宮田晴造さんです。

宮田さんは岐阜県で普通旋盤と機械検査について高校生に技能指導をされており、今回は機械検査についての指導に関する事例を、この日の発表のために作成したプレゼン資料をプロジェクターで投影して紹介されました。

事例紹介の中身は、略歴・指導するに至った経緯・指導にあたっての目標・指導の前に行うこと・指導のポイント・指導での反省点・今後の課題・ものづくり教育への期待など盛りだくさんでしたが、限られた時間（30分）内に、分かりやすくまとめられた資料で説明されました。

指導のポイント

- ① 個別指導時も必ず教員の立会いを
- ② 相手を認め、本人が前向きに考え行動できるように
- ③ 改善点は、相手が理解できるような現象・理由を説明
- ④ 大切なことは書いて覚えさせる
- ⑤ 指摘後にフォローを
- ⑥ 過干渉を避ける

＜説明に使ったプレゼン資料の一部＞

説明では、宮田さん自身が指導にあたって気をつけている点やこれまでの反省点にも触れられましたが、特に強調されていたのは、技能指導を受け入れる高等学校（担当教員）の対応について、ものづくりマイスターと一緒に指導する姿勢を持たせることの重要性でした。

その観点から、今後のものづくり教育に関する課題について、教育現場で技能指導をする立場の教員への指導の充実を、最後に訴えて事例報告を締めくくりました。



＜事例紹介の発表をする宮田晴造さん＞